

大 阪 大 学 学 外 技 術 研 修 報 告 書

令和 6 年 9 月 9 日

大阪大学総長 殿

所属部局 産業科学研究所
職 名 技術職員
氏 名 髙原 綱吉

1. 派遣先の機関名及び派遣期間

派遣先：広島大学

派遣期間：令和 6 年 9 月 5 日～令和 6 年 9 月 6 日

2. 派遣用務

第 30 回 機器・分析技術研究会 2024 広島大学に参加しポスター発表

3. 研修の概要

本研究会は、二日間かけて広島大学東広島キャンパスにて、ハイブリッド形式で開催された。全国の大学や共同利用機関等から、270 名（オンサイト 116 名・オンライン 154 名）が参加した。プログラムは、一日目に特別講演やコアファシリティ事業関連イベントや、54 件のポスター発表があり、私は分析機器の維持管理業務についてポスター発表をオンサイトおよびオンラインで行った。二日目は、機器・分析技術研究会の過去 10 年間の振り返りと、12 件の口頭発表が行われた。また、協賛の分析機器メーカーによる最新の機器情報の展示ブースもあった。

4. 研修の成果と職務への活用内容

特別講演では、広島大学の藪田ひかる教授による、小惑星リュウグウの試料の分析の詳細を聴講し、元素分析や、X 線回折、熱分析、分光分析などあらゆる分析手法の使い方や、役割を知ることができた。ポスター発表では、自身の発表に対して、6 機関の技術職員から質問やコメントを頂き、情報共有や課題解決のヒントを得た他、他機関の技術職員との新たなネットワークが構築できた。また、X 線回折関連のポスター発表を聴講し、分析装置の基礎的な知識を改めて確認することができた。コアファシリティ関連の講演では、他大学での分析機器のネットワークづくりや、技術職員の育成の取り組みについて、最新の知見を得た。さらに、口頭発表では、様々な分析手法により同一の試料を測定し、総合的な考察を行った発表があり、多角的な視点を持った分析の重要性を認識できた。また、分析技術者育成の機関を越えた取り組みの発表があり、技術継承の解決手段の一つを知ることができた。

5. 研修の感想又は希望等

他機関の技術職員と新たなネットワークができたことや、分析技術に関する知見を得ることができ、非常に有意義であった。今後の業務に活用していきたいと考える。本研究会を運営頂いた広島大学の実行委員会の皆様や、その他関係者の皆様にお礼申し上げます。